opusdei.org

心から教皇様に一致 する

教皇在位25周年に当たって、 ハビエル・エチェバリーア司 教が、オプス・デイ属人区の 信者と協力者に宛てた司牧書 簡。

2003/10/12

25年前、オプス・デイ創立50周年を祝った時、主の御計らいで教会の教皇座は空席のままでした。たった33日間でしたが、その微笑みで世界中に感動を与えたヨハネ・パウロー世

この記念日がオプス・デイの創立75 周年と重なる事に今一度神の関与を 見て取り、御摂理を見つめる良い機 会です。神は、全てのことを目立沿・ ないように治め(1)、時の流れに沿よった ないように治めます。主はオプスを がれます。主はオプスを がれまする深い私 でデイになりました。それは、りました。 もの根本的な精神の特徴になり た。1934年、創立者は度々話してい た事を次のように記しました。「キ

友人や知人に広教会の表別を を自がをといる場合に広教会ののでは、 を教えている場合にで教会のでは、 を教えている場合にでするでは、 をかれるではないでは、 をいまがないでは、 をいまがないでは、 をいまがないでは、 をいまがれないでは、 をいまがれる。 をいまがれる。 をはいいでは、 をいるがれる。 をはいいでは、 をいるがれる。 をいるがれる。 をいるがれる。 をいるがれる。 をいるがれる。 をいるがれる。 でいるがいです。 といるのです。 といるのです。

私が度々皆さんに必死に伝えてきた 聖ホセマリアのあの熱い望み、 Omnes cum Petro ad Iesum per Mariam! が神のお恵みで日々実現しています。皆さんの周りに主が置した全ての人が、ペトロと共にマリを通ってイエス様に向かってもます。教会の御母に対する愛情にありないた心で繰り返します。主よありがとうございます。聖母の御取り次 ぎによって全てのよいものが私たち にもたらされます。

この記念日には、多くの場所でヨハ ネ・パウロ二世に対する表敬行事が 挙行されるでしょう。心を込めて参 加したいと思います。しかし、カト リック信者ならそのような外的な愛 情表現で満足する事はできません。 それだけではとても哀れなものに なってしまいます。教会の子供たち は、何よりも、教皇様ご自身のた め、そしてご健康とご意向のため に、惜しみない祈りと犠牲、仕事を お捧げして教皇様に寄り添わなけれ ばなりません。このような態度で間 近に迫っている記念行事に参加する よう教え広めましょう。教皇様に対 するあらゆる愛情と敬意の表明に は、忍耐強い祈りと惜しみない犠牲 の裏打ちがなければなりません。

聖ホセマリアの列聖から一年が経ち ました。この間、私が度々繰り返し てきたように、10月6日の思い出を 記憶から消したり振る舞いから遠ざ けたりしてはなりません。この日付 は、いつまでも続くオプス・デイの 歴史に刻み込まれたのです。自分の 聖性と使徒職への熱意を駆り立てる ために、何度も何度もこの思い出に 立ち戻らなければなりません。あの 日、私たちは特別に深くそれを体験 したのですから。絶えず私たちは教 皇様のお言葉を祈りの糧にしなれば なりません。また、オプス・デイの 精神に従って神に近づこうとしてい る人々にとってもそうあるべきで す。あの折、教皇様はこうお教えに なりました。「世界を神に捧げて、 世界を内部から変えること。これは あなた方の聖なる創立者が教えた理 想です。みなさん、本日、創立者が 祭壇の栄光に上げられたのを見て、 喜びに包まれている事でしょう。キ リストに似た者になることを傷つけ 台無しにしてしまう物質主義の文化 に怯まないように、聖人は今も皆さ

んを励まし続けています。生前、キリスト教の信仰は順応主義や惰性に 反発すべきだと、力強く繰り返し述 べていました。

聖人が歩んだ足跡を辿って、人種や身分や年齢に関係なく全ての人間が 聖性に呼ばれているという意識を社会の中に広げましょう。まず、力した方自身が聖人になるよう努力しまた方はの表され、神の摂理になる。 身を委ね、いつも聖霊に耳を傾ける事、つまり、あなた方は『地の塩』(マタイ5,13参照)になり、そして『あなた方の光は人々の前に』輝き、

『人々があなた方の立派な行いを見て、あなた方の天の父をあがめる』 (マタイ5,16参照)でしょう。」(4)

聖ホセマリアは、模範と言葉で、聖母の母としての仲介に対する愛情と 信頼を表明するために、あらゆる時 に聖母に寄りすがるよう教えまし た。最初の後継者ドン・アルバロ

も、「聖母にしっかりと一致した生 活をし、全ての事を聖母と共にする ように」(5)と励ましていました。今 月は教皇様が公布されたロザリオの 年が終わるので、特に愛情のこもっ た深い信心を持って聖なるロザリオ を唱えましよう。教皇様の勧めに 従って、各玄義を丁寧に黙想しま しょう。教皇様は、いつもマリアに よって、マリアと共に、キリストを 思い起こし、主を理解し、主に似た 者になるように、また人々のために お願いし、人々に主を伝えるように 励ましておられます(6)。

各一連を始める時に、まず教皇様の ご意向を思い起こしなさい。こ人 で、皆さんはオプス・デイの属人き をといる意向に固てで で、パッの聖ホセマリアの言葉で筆を 置くことにします。「愛するび、った でとにしまから私たちを選び、った で、神が永遠から私たちを選びさった でしょう。 でしょう。そこ には仕える誇りがあります。全ての人に仕え、何よりも、一、聖、公、使徒継承の教会に仕え、無条件の愛を傾けて教皇様に仕えます。イエス・キリストに忠義を尽くし、教会の教導権に素直に従い、子供としての心のこもった従順で教皇様に一致して、神の国を広めるために働き祈ります。 | (7)

(注)

- (1) 知恵の書8,1参照
- (2) 聖ホセマリア、1934年3月19日、指導指針31番
- (3) 聖ホセマリア、1964年1月24日対談メモ
- (4) ヨハネ・パウロ二世、2002年10月6日、 聖ホセマリアの列聖式での説教
- (5) アルバロ・デル・ポルティーリョ司教、1978 年1月9日、手紙6番

- (6) ヨハネ・パウロ二世、2002年10月16 日、使徒的書簡『おとめマリアのロサリ オ』13-17番参照
- (7) 聖ホセマリア、1964年1月1日団欒のメモ

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/xin-karajiao-huang-yang-ni-zhi-suru/(2025/11/12)